

フッ素ワックス検査

SAJ
フリースタイル&スノーボード

スキークロス(SX)
スノーボードクロス(SBX)
スノーボードアルペン(SBAL)

2024年12月

フッ素ワックス検査

- FISは2023/24シーズンからフッ素ワックス禁止の完全施行を決定
- FISはトップカテゴリーの大会において、フッ素ワックスが使用されていないことを確認するため、スキー/スノーボードの検査を実施する
 - FISワールドカップ
 - FIS世界スキー選手権
 - FISジュニア世界選手権などの主要大会
- その他のレベルの大会における検査は、これらの大会も規制されていることを確認するために、各国スキー連盟と連携の下、無作為に実施される

フッ素ワックス検査

- FISは、IBUと同様に、FISの大会で義務付けられているフッ素ワックスの使用を禁止することに合意した。
- テストの開始をできるだけスムーズにすることがFISの目的であることを確認すること。
- FISはテストの数や場所に関する特定の情報を公表しない（例えば、すべてのドーピング・コントロールの詳細リストなど）。

フッ素ワックス検査

検査手順

- SAJ検査チーム＝フッ素ワックス検査員
- 検査はFIS公認大会およびSAJ公認大会で無作為に行われる。
- 検査は出口に隣接するフッ素ワックス検査エリアのテント内で行われる。
- テストセッションを実施する場合がある。

フッ素ワックス検査

予選の検査手順

選手のスキー/スノーボードは予選中（滑走後）にランダムに検査される可能性がある。

1. 検査スタッフがスキー/スノーボードをフッ素ワックス検査エリアに搬入する。
2. 検査スタッフがナンバーリングを行い、フッ素ワックス検査員が指定するラックにスキー/スノーボードを立てかける。
3. （テント内において）検査が行われる。
4. すべての検査データは、SAJのPCに保存され、FIS公認大会の検査データはFISのデータベースに保存される。
5. 検査後のスキー/スノーボードは指定のラックに返却され、選手が自らピックアップする。

フッ素ワックス検査

ヒート中、または競技後の検査手順

選手のスキー/スノーボードはヒート中（滑走後）に検査される可能性がある。

予選時と同様の手順（1～5）で検査を行う。

- 各ヒートにおける下位1～2名（SX/SBX）のスキー/スノーボードをランダムに抽出し、検査を実施する（準決勝まで）。
- 各ヒートにおける下位1名（SBAL）のスノーボードの検査を行う（準決勝まで）
- ビッグファイナルおよびスモールファイナルは全選手のスキー/スノーボードを検査する。

フッ素ワックス検査

違反(レッド)スキー/スノーボード

- 選手のスキー/スノーボードが「レッド」と判定された場合、その選手が所属するチームの代表者が、ジュリーから連絡を受ける。
- スキー/スノーボードを回収するためにテントに立ち入ることができるのは、選手を含めて2名までとする。
- 要請があれば、レース終了後、フッ素ワックス検査員は、選手の失格につながった結果を開示する。
- 収集されたすべてのデータは、FIS データ・ベース、またはSAJのPCに登録・保存される。
- 違反(レッド)スキー/スノーボードがレッド専用ラックから搬出された場合、いかなる再検査も行われない。

フッ素ワックス検査

ICR

222.8

フッ素ワックス、またはフッ素を含むワクシング用具の使用は、FIS のすべての種別・種目およびすべてのレベルで禁止されている。フッ素ワックスは競技上有利になる可能性があり、競技での使用は失格となる。(競技規則および用具規定を参照のこと)。

フッ素ワックス検査

測定手順

- 1ペアの内、スキー1本、またはスノーボードを検査する。
- 検査値が0-1の場合（グリーン表示）、次のポイントへ移動、最大3ポイントまで検査を行う。
- 検査値1以上の場合（レッド表示）、検査結果の確認をするために必要なポイント数を検査する。もし3ポイントがレッド判定となった場合はDSQとなる。
- 検査結果がグリーン判定になったら、ピックアップできる専用ラックにスキー/スノーボードを移動する。
- 検査結果がレッド判定の場合、レッド専用のラックに移動する。リザルトの確認は、レース終了後にチームの代表者に対して行う。

フッ素ワックス検査

検査判定表

閾値ゾーン				
0-1	0-1	1<		
3点の検査結果			結果	判定
			OK	OK
			OK	OK
			OK	OK
			不合格	DSQ

フッ素ワックス検査

競技後

- レッド反応が出た場合、競技者は失格(222.8によるDSQ)となる。
- この決定は、 Jury から通知され、不服申し立てはできない。
- 検査結果を根拠として保存される。

フッ素ワックス検査

「規制上の意味において、フッ素ワックス検査はICR規則222.6に定義される重要なマテリアルコントロールとみなされる。検査結果がレッドと表示された場合、追加検査は、同じ検査器と同じ人員で行うが、その間に他のスキーの検査が行われるため、遅れが生じる。

ICR競技規則222.6.1において(FIS公式検査ツールを使用するFIS公式検査エキスパートが任命されたすべてのFIS公認大会およびSAJ公認大会において、その時点で実施された検査結果は、以前の検査結果にかかわらず有効かつ最終的なものである)規定されているように、上記の検査手順後の決定に対して不服を申し立てることはできない。

フッ素ワックス検査

フッ素ワックス検査員が準備するもの：

- 検査機器（ブルカー社 Alpha II）
- 専用PCおよび検査用ソフトウェア（OPUS最新版）
- スライドシステム一式等

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または大会実行委員会に準備していただくもの：

- テントを設置する区切られたゾーン(エリア)、サイズは5m × 5m程度、フィニッシュエリアに隣接
- テント 1張 3m × 3m(横幕付)
- テーブル 1台(会議用)、椅子1～2脚
- ヒーター
- 照明 × 1(テント内が暗い場合)
- 床(カーペットなど滑りにくい素材であれば何でも可)、サイズは3m × 3m程度
- 安定した電源(100ボルト)

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または大会実行委員会に準備していただくもの

- スキーラック2台
- アシスタント1名または2名
 - スタート1時間前からレース終了まで
- フッ素ワックス検査員の車がフィニッシュエリアに到着できない場合の機材の運搬サポート

フッ素ワックス検査

フッ素ワックス検査員とその責務

フッ素ワックス検査員：

- 競技中のフッ素検査の組織化に直接関わり、責任を負う。
- 競技会場でのフッ素ワックス検査のスムーズな流れに責任を持つ。
- 競技中に発生したレッド判定を Jury に口頭で報告する。
- 競技後、テント内でレッド判定の根拠を Jury に示す。
- 競技会終了後、TD にレッド判定を書面で報告する。
- フッ素ワックス検査員の旅費、宿泊費、謝金はSAJが負担する。

フッ素ワックス検査

大会組織委員会、または実行委員会のアシスタント:

- アシスタントは検査員の指示に基づきサポートを行う。
- アシスタントの人数は、検査機器の台数による。

Jury:

- フッ素ワックス検査員から情報を受け取る。
- DSQと制裁の可能性について決定する。
- レッド判定の際、フッ素ワックス検査員から受け取った報告書をTDレポートに添付する。